

# 市民広聴会「まちづくりほっとミーティング」

## テーマ：親なき後問題を考える

### 会議録（概要）

日時	令和5年8月4日（金） 10時～11時50分
会場	友愛の家
出席者	参加者（公募）13人、観覧者1人、市長

#### 1. 市長あいさつ・趣旨説明

- ・今年度のまちづくりほっとミーティングは実際に不安や心配などを抱えているかたの声を直接聴き市政に反映していくことを目的に開催する。今回は親がいなくなった後の知的障がい者の将来への不安について話し合いたい。

#### 2. 意見交換内容（参加者から出た意見）

##### 【医療ケアも受けられる施設の選択肢について】

- ・自分1人で家で生活するとしたら24時間介護を付けて看てもらう必要がある。将来は看護師がいるグループホームを希望しているが岡崎市にはない。
- ・今は、日中は施設へ行き、家に帰ってきたら家族が介護する生活をしており、本人は楽しく過ごしているので、今の状態が続くことが一番の望みである。しかし、親なき後は家に帰ってきても介護してくれる人がいないので、医療ケアも受けられる施設へ入りたいと考えているが岡崎市にはそういった施設が少ない。
- ・将来、重度の身体障がい者でも受け入れてもらえるグループホームができる可能性があるのか、既存の施設が受け入れてくれるようになるのか。親なき後、どうしたらいいのか分からないというのが本音。
- ・医療ケアが受けられる施設が増えないのは1人を看するのに労力がかかり赤字になってしまうからだと思う。補助金などを活用し、重度の障がいがあっても受け入れてもらいやすい仕組みがあると良い。
- ・医療ケアをするとなると看護師を配置する必要がある、事業者も経費がかかる。看護師の配置に対する補助金を充実させるなどすれば、医療ケアを行う事業者が増えるのではない

か。預ける側も安心して預けられるような仕組みを構築してほしい。

#### **【安心して預けられるグループホームとなるビジネスモデルづくり】**

- ・グループホームといっても千差万別で、預ける側としては心配が尽きない。行政として、グループホームのビジネスモデルを構築してほしいと思う。
- ・関係団体とも連携し、複数の目でグループホームや事業所を監視する体制を整備してほしい。何が起きているか、どこが管轄しているかが明確で、ルールがきちんとしている施設に預けたいと思う。
- ・同じ障がいだとしても、ひとりひとり個性があり色々な事例がある。企業として、スタッフへの教育をしっかりと行い、知識を身に付けたスタッフがいる施設に預けたいと思う。

#### **【自宅のグループホーム化について】**

- ・色々な条件はあるかと思うが、障がい者だけで暮らしている家庭もあるので自宅のグループホーム化は選択肢の1つなのではないかと思う。

#### **【自分自身が安心できる場所で暮らせる仕組みづくり】**

- ・親としては、安心して自宅で暮らせるのが一番だと思う。そのためには、地域のかたの協力、行政のバックアップが不可欠。

#### **【助けて欲しいときに助けてもらえる関係づくり・相談体制】**

- ・自力でできることはあっても社会で生きていくことを考えたら一部分でしかない。周りからのちょっとした声掛けや理解があると助かる。
- ・「今、助けて」という時にすぐに飛んで来て助けてくれる人がいてほしい。本当に必要なのはそういう助けだと思う。
- ・相談所に相談したとしても、当然のことながら制度からはみ出したことはやってくれない。親同士で会話していると「こうしてみたら?」「こんなこともできるよ」といった声がたくさん出てくる。そういった、生活に役立つアドバイスがもらえる相談先を求めている。

#### **【通学時の移動支援について】**

- ・通学の時間帯は自転車や徒歩のかたも多く、一人で行かせるのは危険。通学でも移動支援を使えるようにしてほしい。

### **3. 市長総括**

- ・それぞれ事情が違って、悩みや不安も様々である。今日は障がいがある子の親として将来

への不安について話し合うことができたが、考えなくてはいけないことがありすぎて「どうしたらいいのか分からない」というのが本音だと思う。皆さんからいただいた意見は今後の市政の参考とさせていただく。